

満開の桜に見守られ



盛岡二高

女子生徒200人が入学

仲間と支え合い自己実現へ

県内では7日、盛岡市立高を含む公立高校53校で入学式が開かれた。県立盛岡二高（鈴木広樹校長）も盛岡市上ノ橋町でも式があり、女子生徒200人を迎え入れた。真新しい制服に身を包んだ新入生は、満開の桜と保護者の温かなまなざしに見守られながら入場。「白梅精神」で進取・清楚・強健」を校訓とする同校でのスタートを切った。

担任が一人ひとりを呼名の後、鈴木校長が入学許可を告げた。新入生代表の下部幸乃さんは「きょうから始まる高校生活に、期待と希望で胸を膨らませ、
~~~~~  
誓いの言葉を述べる下部さん（左）

新たな一歩を踏み出す。生活や難しくなる勉強に不安もあるが、周囲の意見に耳を傾け、仲間と支え合い乗り越えたい。日々感謝を忘れず、それぞれが自己実現に向けて全力で取り組む」と宣誓した。

鈴木校長は「これからの3年間は、人生を左右する大切な時期。将来、社会で果たすべき役割と使命を自覚し、はつきりとした目標を掲げ、自りできることを考え、主体的かつ協力的に行動を。互いの個性と能力を認め合い、切磋琢磨（せつさたくま）しながら、高校生活を明るく有意義なものにしてほしい」と式辞を述べた。式の終わりには、音楽部による校歌と、旧校歌「雪間に匂ふ」の歌唱もあり、晴れの日々に花を添えた。新入生の高橋真鈴さんは「中学とは環境が変わり、緊張もあるが楽しみ。部活は写真部に入りたい。進学を目標に勉強をして、将来の夢を見つけていきたい」と話していた。

（盛岡タイムス）

この記事は盛岡タイムス社の許諾を得て転載しています。